

継続は力なり

なり砕石部の佐藤一男さんが、3月で定年となり昭和55年入社以来27年間、浄法寺石工場の誕生と共に、「業務に精励していただき誠にありがとうございます。」と、皆で慰労会を開きました。ただいまの誠実さや粘り強さを手本に、良き財産の受け継ぎたいと思っております。本当にお疲れ様でした。継続雇用でこれからは、



歴史に幕

3月といえば別れのシーズンです。百余年の歴史を誇る県立福岡高校でも3月2日に商業科の閉科式と卒業式が行われました。福岡高校商業科は、昭和29年4月に新設されて以来『文武両道』『質実剛健』の校風の下、野球部甲子園出場源動力となり、また二戸経済の中核となって活躍されている方々を数多く送り出してきました。最後の卒業生となった35名は、授業の一環として地元商店の方々と交流もあり「商業科を支えてくれた地元へ恩返ししたい」という感謝の気持ちから、企画、宣伝、運営までを自分たちで手掛け「萬代寄席」を開催、八戸市出身の落語家桂小文治さんらを招き、大盛況を博しました。卒業生にとっても地元の方々にとっても忘れられない1日となったことでしょう。総勢3,413名の卒業生を送り出した福岡高校商業科は、最後の卒業生35名がさわやかに学舎を後にし53年の歴史に幕が降ろされました。

編集後記

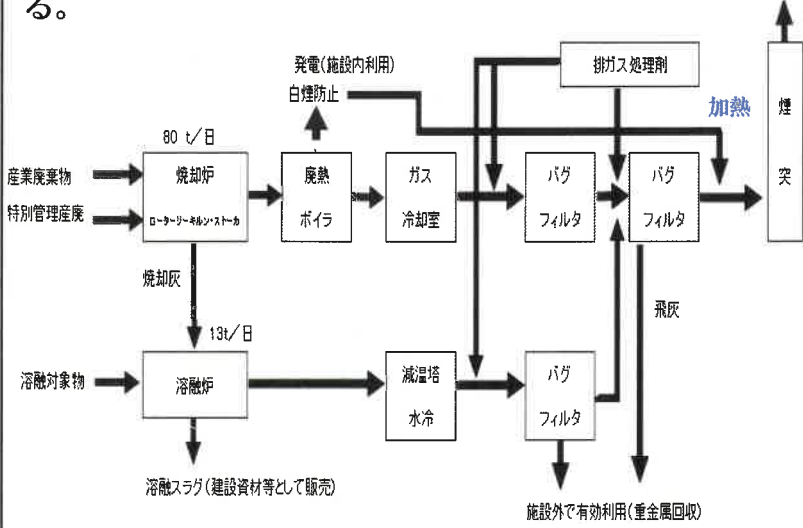
いよいよ新年度のスタートです！昨年度はご愛顧いただきまして誠にありがとうございました。皆様に『フクタなら・・・』をモットーに、お客様のご希望に合った商品や対応に社員一同今年度も更に頑張っていきたいと思っております。『忙しくて・・・大変だあ〜』と、皆様からのお声も聞く年度でありますように(^-^)

第2クリーンセンター（仮称） 共用開始へ順調

九戸村江刺家地内に計画されている産業廃棄物処理施設『第2クリーンセンター（仮称）』が、平成21年4月の供用開始に向けて順調な準備が進められている。

施設は、焼却ラインと熔融ラインが別系統となっており、焼却灰はスラグ化、熔融飛灰は金属回収業者へ搬送することによって最終埋立処分の低減を目指す、先進的な施設となる計画である。

県北地区における産業廃棄物の適正処理に向けて、大きく貢献していただけるものと期待が寄せられている。



天候不順に思う

ここ数年、お天気にけじめがないように思う。冬は冬らしく、春は春らしくと思うのだが、寒中に十度を超える暖かさだったり、彼岸に入って氷点下十度を下回ったり、暦どおりならぬ。今（三月三十日）も先が見えない程の雪が降っている。

県北経済も天候不順である。うわべの事象に左右されない『柱』がないと飛ばされかねない。

混沌の先に、新たな秩序と価値が生まれることを信じつつ改めて自分達の足元を見つめ、『石ができること』と『石でできること』を考えてみようと思う。

大当たり!

何気なく納品伝票を見たら、累計伝票番号の欄にやたら9が並んでいるのが目についた。「219998」であった。ほどなく「220000」となり心の中で秘かに拍手した。自動車の走行距離が「10万km」になったとか、デジタル時計を見たら「5:55」だったとか、パチンコで「777」と並んだとか区切りのいい数字に出くわすことがある。些細な事だがそういう瞬間を目撃できることはちょっとした興奮である。累計22万は、現在のパソコンを導入して6年目のことである。『220000』も『1』を22万回の積み重ねなんだと考えると大きな数字に見えてきた。